

3. 安全安心なまちづくりの現状と課題

3-1 防災・防犯に関する国民意識の変化

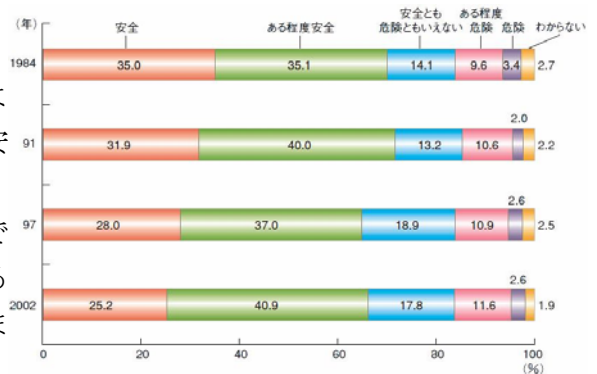
(1) 災害・犯罪に関する不安の高まり

- ・ 地域の安全性への評価が低下傾向にあり、防災まちづくりの推進の必要性がある。
- ・ 地域の治安が悪くなったと感じる傾向があり、外国人による犯罪や地域社会の希薄化などが要因としてあげられている。

① 災害に対する不安

災害大国と呼ばれる我が国では、自然災害による被災者が毎年、発生しており、継続的な安全安心の向上の取り組みが必要である。

地域の災害への安全度に関する意識調査結果では、「安全」と感じる人の割合は経年的に減少する傾向が見られており、国民意識の面からも防災まちづくりの推進の必要性が示されている。

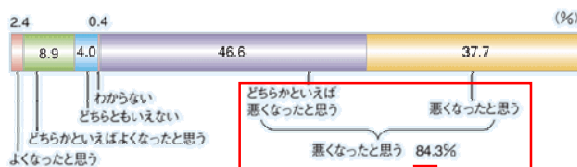


(備考) 1. 内閣府「防災に関する世論調査」により作成。
2. 「あなたは、あなたの住んでいる地域が災害に対し安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。この中から1つお答えください。」という問いに対して、回答した人の割合。
3. 回答者は、全国の20歳以上の者。

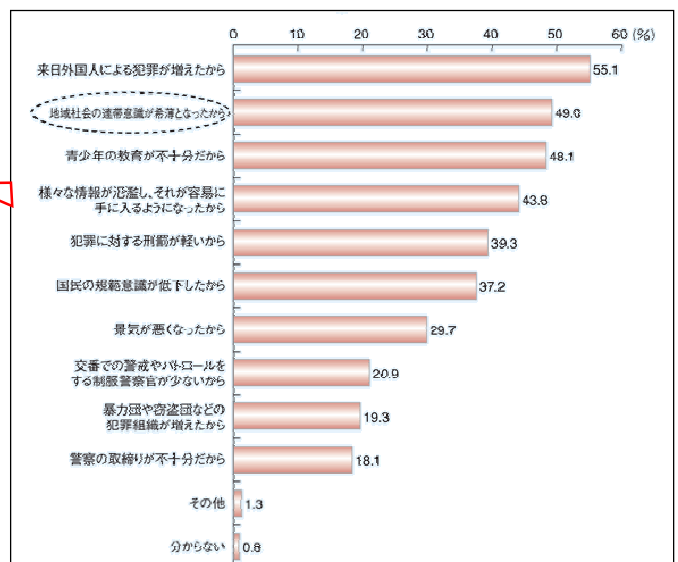
図 地域の災害への安全度に関する意識の推移 (平成 19 年 国民生活白書より)

② 犯罪に対する不安

内閣府による治安に関する意識調査(2006年)では、ここ10年間の治安の変化について、「悪くなったと思う」「どちらかといえば悪くなったと思う」を含むと回答した人は、8割を超える結果となっており、更なる治安向上に向けた取り組みの必要性が示されている。



治安が悪くなった要素として、「来日外国人による犯罪」が最も多く、半数以上が回答しているほか、「地域社会の連帯性の希薄化」として、地域による防犯機能の低下を要因とする回答が、ほぼ半数(49%)となっている。



(備考) 1. 内閣府「治安に関する世論調査」(2006年)により作成。
2. 「あなたは、ここ10年間で日本の治安はよくなったと思いますか、それとも悪くなったと思いますか。この中から1つだけお答えください。」という問いに対して、回答した人の割合。
3. 回答者は、全国の20歳以上の者1,795人。
4. 上記2で「悪くなったと思う」または「どちらかといえば悪くなったと思う」と答えた人に、「治安が悪くなった原因は何だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。」と尋ね、回答した人の割合。